

平成30年度 小島・茂木地域包括支援センター活動紹介

担当地区の統計

平成31年3月末現在 ※(平成30年3月末)

65歳人口	9,058人 (9,023人)
高齢化率	36.8% (36.2%)
要支援認定者	641人 (605人)
認定者数計	2,095人 (2,083人)
認定率	23.1% (23.1%)
事業対象者	168人 (103人)



平成30年度は地域ケア推進会議・認知症見守り声かけ模擬訓練に力をいれました!

第1回目 みんなで見守り～安心して暮らせる茂木を目指して～

開催日：平成30年11月21日(水)
 時間：19:00～20:30
 場所：茂木公民館講堂
 参加者：67名(自治会長・民生委員・老人会長・地域住民・医師・専門職など)

長崎市における認知症高齢者の現状や認知症の理解についての講話(認知症疾患医療センター宮川氏)や茂木エリアでの徘徊の事例紹介、「自分だったらどう声をかけるか」のグループワーク等を行いました。活発な意見交換が行われ、地域住民の方の意識の高さを感じました。



声かけの判断のポイントや気になる人への声のかけ方や実際に認知症の方に声をかける練習をしていただきました。

第2回目 認知症見守り声かけ模擬訓練「徘徊」から「安全なひとり歩きのまち」in茂木

開催日：平成31年1月23日(水)
 時間：14:00～16:00
 場所：茂木公民館講堂・茂木地域センター周辺
 参加者：64名(自治会長・民生委員・老人会長・地域住民・歯科医師・金融機関・専門職など)

前回会議(平成30.11.21)の振り返りを行い、「長崎署管内の現状、見守り声かけのポイント」(長崎警察署・生活安全課)、屋外での見守り声かけ訓練、グループワーク(意見交換)を行い、地域住民と関係機関と一緒に「認知症見守り声かけ模擬訓練」を行うことで、地域住民の理解と協力を得られ、地域での見守りネットワークの構築を図ることが出来ました。

実際の模擬訓練の様子



会議の様様

長崎署 生活安全課より

田上交番の方にも実際に参加してもらいました

必要な場合は警察や包括、家族へ連絡をしています

スタッフが警察や包括職員として電話対応

～認知症 地域で理解深めよう～

長崎新聞記事(平成31年1月25日付)

介護予防ケアマネジメント

平成30年度は19名の方が短期集中通所サービスを利用されています。地域住民に介護予防の必要性の周知と一般介護予防事業や介護予防・生活支援サービス事業の利用推進を図っています。

住民主体の通いの場づくり・支援

平成30年度から開催されているもぎ元気サロン(市サロン)、たがみなごみクラブ(自主グループ)、T・宮摺さざんかの会(自主グループ)の3ヶ所に在宅支援りハビリセンターと連携し、立ち上げ支援に関わりました。心も体もリフレッシュされて、皆さん楽しく活動しています。



もぎ元気サロン



たがみなごみクラブ



T・宮摺さざんかの会

介護予防の推進

地域ケア個別会議

当地域包括支援センターでは、自立支援型地域ケア個別会議を2ヶ月に1回(2事例)開催し、医師、歯科医師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、在宅リハビリ支援センター等をコアメンバーとし、下記内容を開催し、自立した日常生活を営むことができるよう支援しました。

地域ケア会議(地域包括ケアシステム)

6月

- ADL低下した状態で自宅へ退院する事例
- 体力低下のため外出を控えている事例



8月

- 双極性感情障害による生活に支障がある事例
- 脳梗塞後遺症の問題がある事例



10月

- 消化器疾患あり食事内容改善の必要がある事例
- 体重過多による活動量低下がある事例



12月

- 高血糖で服薬管理の支援が必要な事例
- 転倒リスクのある事例



2月

- 喫煙飲酒や治療の弊害がある事例
- 体力低下体重減少のある方の事例



認知症カフェ

平成30年度から毎月このカフェを毎月開催し、脳トレや講話、レクリエーション、音楽、茶話会などを行い、参加者同士が自由に交流出来る機会を作りました。

認知症初期集中支援チーム

平成30年度は認知症や妄想性障害で家族や関係者が、苦慮している4ケースに介入し、医療と福祉の立場で認知症疾患医療センターと連携し支援を行いました。

認知症スクリーニング検査

もぎ元気サロン、彦見UPアップ教室で50名実施し、18名をフォローしました。

見守り体制

認知症サポーター養成講座を小・中学校・高校・短大等に7回開催し、延べ264名のサポーターと1名の認知症サポーターリーダーが誕生しました。

今年度は茂木地区で初めて認知症見守り声かけ模擬訓練(地域ケア推進会議)を開催し、声かけなどを通して、接し方や通報の仕方を体験して頂き、認知症ネットワークの構築を図りました。

認知症策の充実

虐待防止

包括の虐待相談件数は家族、ケアマネ等からの6件あり、関係機関と連携を取り、課題解決に努めました。

成年後見制度

包括への成年後見制度の相談は延べ37件あり、本人、家族の申立て支援等を行いました。又、2ヶ月に1回、包括にて、弁護士無料相談会を実施し、地域住民や関係機関からの財産管理5件、成年後見3件、その他3件の相談があり、法的な問題を抱えている高齢者の身近に対応できる機会を設けました。

家族介護教室

年2回、認知症講話や介護技術、笑いヨガ等を開催し、延べ20名参加し、介護者への支援を行いました。

令和元年度の取組

- サロン、自主グループがない地区の立ち上げ支援を行います。
- 自立支援型地域ケア個別会議を年6回開催し、自立支援に向けたケアマネジメントを実践します。
- 地域ケア推進会議を未開催地区で開催し、地域の資源を活かしたしくみ作りや地域・専門職の見守り体制の構築に努めます。
- 平成30年度から初めて開催した徘徊模擬訓練を継続・定着化し、見守り体制の地域拡大を図ります。